

三宅剛一元教授の御逝去

會告

京都大学文学部元教授、文学博士、日本学士院會員、三宅剛一先生は、昨昭和五十七年十月八日午後一時五分、御入院先の湘南ホスピタル（神奈川県藤沢市）で逝去された。御享年八十七歳。

先生は岡山県浅口郡鴨方町益坂の御出身。大正八年七月、京都帝国大学文学部を卒業された。その翌月、同学部副手を拝命。爾後、新潟高等学校（大正十年）、東北帝国大学理学部（大正十三年）および同法文学部（昭和二十一年）にそれぞれ講筵を開かれる。この間、昭和五年から七年にかけては、フライブルク大学において、フッサールおよびハイデッガー両教授に親炙、当時最新の動向を中心に研鑽を重ねられた。總て昭和二十九年、母校京都大学文学部に迎へられ、昭和三十三年の御停年まで哲学講座を担当される。御退官後も昭和四十六年まで、学習院大学、ついで大手前女子大学で御講義を続けられた。このやうに、実に五十餘年にわたり、御講壇を通じて数多の後進を育成され夥しい子弟を薫陶されたのである。しかもこの長い教職の期間、そして更に最晩年までの歳月は、先生にとり同時に、哲学の最根源的且つ最正統的な問題に、正面から孜々として取組まれる一日一日でもあつた。

かくして、「体系的哲学者の最後の一人」とも評せられるやうに、そのお仕事は哲学の主要領域の略々全面に

わたつてゐる。すなはち、先生はまづ数理および論理の問題の論考から出発されるが（のちに『経験的現実の哲学』（昭和五十五年）に概ね収載）、これを二十餘年を費して、西洋の古典的哲学の歴史的研究を通じ、その脈脈にまで掘り下げられる（『学の形成と自然的世界』（昭和十五年））。そこでやうやく、先生はこの厳正かつ客観的な基礎の上に、現象学の独自の解釈を軸として、御自身の体系「人間存在論」を構築され、逐次展開されるのである（『人間存在論（昭和四十二年）から『人間存在論（昭和五十一年）まで）。これら記念碑的業績に見いだされる透徹した批判的眼識、主観性をどこまでも排した豪毅な思惟、それがいかに哲学の学徒に襟を正さしめたか、敢へて多言を要しないであらう。のみならず、先生は学界の泰斗として、昭和三十五年から三年間、日本哲学会會長の重責を果たされ、また四十三年以降は日本学士院會員であられた。

『哲学研究』には、「人間存在と超越」（昭和三十三年）をはじめ、八篇を十一回にわたり御寄稿いただいただけではない、草創当時の熱気に参与された先輩として、特に御関心が深く、編輯者を常に温かく督励された。「母校の学問的伝統はどんなことがあつても守り抜かれたらぬ。『哲学研究』は一冊でも多く刊行しなくてはならぬ」と情理を尽くされた。

しかるに昨年、花信頻りの頃、先生は病を発せられ、菊花の頃、逝いて白玉の高襟に入られた。いま再び春を迎へ、御偉業を偲び、狎近を許されざりし御人柄を想へば、哀惜切切のうちにも讃嘆と敬慕の情尽くることなく新たなるを覚える。

謹んで御霊の御平安と御冥福とをお祈り申しあげます。
昭和五十八年四月二十日

京都哲学会

二 外国哲学者来訪記事

(1) ホー・ウィン・メン (Ho, Win Men) 博士

(シンガポール大学)

昭和五十七年五月十日

於文学部

「オックスフォード学派言語哲学についての批判的検討」

(2) ヴェルナー・バイヤーヴァルテス (Werner Belerwates)

博士 (マニヘン大学)

昭和五十七年十月十二日 於ゲーテ・インスティテュート

「新プラトン主義の根本特質について」

三 京都大学文学部哲学科講義題目

——昭和五十年度——

※二回生が履習できる専門科目

〔共〕 大学院と共通

〔院〕 大学院のみ

哲学

- 講義 教授 辻村 公一 ※哲学概論
- 研究 教授 辻村 公一 時間論
- ” 助教授 木曾 好能 哲学と論理
- ” 講師 東 専一郎 日本思想史と哲学(倫理学と共通)

〔共〕

” 講師 茅野 良男 現代の哲学的人間学(倫理学と共通)

演習Ⅰ 教授 辻村 公一 Kant: Kritik der reinen Vernunft

” 助教授 木曾 好能 Hume: A Treatise of Human Nature (Bk. I, Pr. iii, Sect. 3)

演習 講師 井上 庄七 Descartes: Meditationes de prima philosophia

” 講師 水野 和久 Merleau-Ponty: Le visible et l'invisible

演習Ⅱ 助教授 辻村 公一 好能 哲学の諸問題

” 教授 藤沢 令夫 ※西洋古代哲学史概説

西洋哲学史

” 教授 山田 晶 ※西洋中世哲学史概説

” (未定) ※西洋近世哲学史概説(後期)

研究 教授 山田 晶 創造の問題

” 教養部 教授 上田 泰治 ホワイトヘッドの思想展開

” 講師 水地 宗明 ヘレニズム期哲学の諸問題

” 講師 稲垣 良典 中世の倫理思想(基督教と共通)

- ” 講師 近藤 洋逸 [共] 科学思想史
- ” 講師 竹市 明弘 [共] ハイテッカー研究
- ” 講師 藤沢 令夫 [共] Platon: Sophistes 247B~
- ” 講師 藤沢 令夫 [共] Aristoteles: Metaphysica M6~
- ” 講師 藤沢 令夫 [共] Aristoteles: Metaphysica M6~
- ” 講師 山田 晶 [共] Augustinus: Confessiones (第11卷)
- ” 講師 山田 晶 [共] Thomas Aquinas: Summa Theol. I (第9問)
- ” 講師 山田 晶 [共] Thomas Aquinas: Summa Theol. I (第10問)
- ” 講師 西谷 裕作 [共] Leibniz: Discours de métaphysique (倫理学へ共通)
- ” 講師 酒井 修 [共] Hegel: Der Geist des Christentums und Sein Schicksal [共]
- ” 講師 磯江 景孜 [共] W. v. Humboldt: Über die Verschiedenheit des menschlichen Sprachbaues und ihren Einfluß auf die geistige Entwicklung des Menschengeschlechts [共]
- ” 講師 山下 正男 [共] Petrus Hispanus: Summulae Logicales [共]
- ” 講師 小池 三郎 [共] Augustinus: De Doctrina Christiana (基督教学へ共通)
- ” 講師 日下 昭夫 [共] Anselmus: De Veritate [共]
- ” 講師 山本 耕平 [共] E. Gilson: Being and Some Philosophers
- ” 講師 斎藤 義一 [共] Schelling: Über die Natur der Philosophie als Wissenschaft [共]
- ” 講師 山野 耕治 [共] W. Jaeger: Paideia, die Formung des griechischen Menschen
- ” 講師 尼々崎徳一 [共] Platon: Apologia Socratis
- ” 講師 服部 正明 [共] ※インド思想史
- ” 講師 服部 正明 [共] Minansa 研究序説
- ” 講師 北川 秀則 [共] Nyāyabodhini 研究 (前期)
- ” 講師 前田 專学 [共] Sankara 哲学研究 (仏教学、梵语学、梵文学へ共通)
- ” 講師 原 実 [共] Hinduism 研究序説 (梵语学、梵文学へ共通)
- ” 講師 渡瀬 信之 [共] 中期ヒンドゥー法の諸問題 (梵语学、梵文学へ共通)

演習	教授 服部 正明	Yogabhasya, II~IV	[共]	研究	教養部 中島 誠	心理言語学(言語学と共通)	[共]
教授	大地原 豊	サンスクリット文選II(梵語学梵文学と共通)		教授	梅本 堯夫	学習理論(教育学部と共通)	[共]
教授	小林 信彦	Mokṣadharmā (Mahābhārata, XII)(仏教学・梵語学梵文学と共通)		教授	百名 盛之	教育学工(教育学部と共通)	[共]
助手	井狩 弥介			教授	中谷 和夫	教理心理学	[共]
教授	服部 正明	Vakyaṇḍīya, I	[院]	教授	村田 孝次	言語の発達(教育学部と共通)	[共]
中国哲学史							
講義	教授 湯浅 幸孫	※中国思想史		講師	秋田 宗平	知覚の生理学的基礎	[共]
研究	人文研 吉川 忠夫	史注の学(東洋史学と共通)	[共]	講師	清水御代明	思考心理学	[共]
講師	戸川 芳郎	漢魏の学術	[共]	講師	鈴木 良次	形と認識	[共]
演習	教授 湯浅 幸孫	王夫之・宋論	[共]	講師	永田 良昭	人間関係の機構	[共]
人文研	尾崎雄二郎	説文解字注(中国語学中国文学と共通)	[共]	教授	本吉 良治	現代心理学の諸問題	
講師	日原 利国	公羊正義	[共]	教授	本吉 良治		
講読	講師 黄 濟 清			教授	本吉 良治		
研究	教授 湯浅 幸孫	清朝の儒学	[院]	教授	本吉 良治		
心理学							
講義	教授 柿崎 祐一	※心理学概論		教授	本吉 良治	心理学特殊実験(実験乙)	
教授	平野 俊二	※学習心理学		教授	本吉 良治		
教育学部	坂野 登	教育心理学(教育学部と共通)		教授	本吉 良治		
教授	坂野 登			教授	本吉 良治		
演習	講師 住田孝次郎	※心理学統計法		教授	本吉 良治		
助手	松島 隆二	対人行動の機構		教授	本吉 良治		
助手	松島 隆二	心理実験制御法		教授	本吉 良治		

講読 助教 平野 俊二 ドイツ語文獻講読
 研究 教授 柿崎 祐一 ヘルムホルツの業績とその現代的意義

教授 本吉 良治 動物の行動—その適応と創造—

教育学部 助教授 坂野 登 意識の諸問題 (教育学部と共通)

演習 教授 柿崎 祐一 現代心理学の諸問題
 助教授 本吉 良治

教授 中島 誠 発達心理学演習

教授 木下 富雄 社会心理学演習—流言の研究—

倫理学

講義 助教授 西谷 裕作 ※倫理学概論
 助養部 山本 誠作 ホワイトヘッドの宗教哲学研究 (宗教学と共通)

講師 中埜 肇 Sittlichkeit の概念をめぐる諸問題

講師 東 専一郎 日本思想史と哲学 (哲学と共通)

講師 茅野 良男 現代の哲学的人間学 (哲学と共通)

演習I 教授 森口美都男 Kant: Kritik der Urteilskraft, Erster Teil [共]

演習II 教授 森口美都男 倫理学の諸問題 (倫理学専攻四回生以上) [共]

演習III 助教授 西谷 裕作 Leibniz: Discours de méta-physique (西洋哲学史と共通)

演習 講師 深谷 昭三 M. Scheler: Wesen und Formen der Sympathie, Liebe und Hass [共]

講師 三嶋 唯義 J. Maritain: La philosophie morale (宗教学と共通) [共]

講読 助人手 内井 惣七 J. Feinberg: Social Philosophy [共]

美学美術史学

講義 教授 吉岡健二郎 ※美学概論

助教授 清水 善三 ※日本美術史概説

教授 吉岡健二郎 芸術における魔的なもの [共]

助教授 清水 善三 浄土教絵画史論 [共]

助養部 乾 由明 十九世紀フランス絵画史 [共]

助養部 新田 博衛 絵画空間の構造 [共]

助養部 武田 恒夫 水墨障壁画史論 [共]

講師 上平 貢 イタリア・ルネサンス絵画の研究 [共]

” 講師 山岡 泰造 中国の山水画 [共]

” 演習Ⅰ 助教 吉岡健二郎 美学・美術史学の諸問題

” 演習Ⅱ 助教 清水 善三 美術史学の実地指導 [共]

” 講義 助教 新田 博衛 B. de Schloezer: Introduction a J. S. Bach

” 助手 岩城 見一 A. Baumeier: Hegels Asthetik

” 演習Ⅰ 助教 吉岡健二郎 美学・美術史学研究の諸問題 [院]

” 演習Ⅱ 助教 清水 善三 美学・美術史学研究の諸問題 [院]

” 講義 教授 吉岡健二郎 美学・美術史学関係論文選読 [院]

社会学

社会学(文化人類学)

” 講義 教授 池田 義祐 ※社会学概論 [共]

” 研究 教授 池田 義祐 社会本質論 [共]

” 人文研究 助教 中 久郎 行為と社会構造 [共]

” 教授 太田 武男 家族問題 [共]

” 講師 吉田 民人 機能主義社会学の諸問題 [共]

” 講師 小山 陽一 階級論の諸問題 [共]

” 講師 倉田和四生 都市社会学 [共]

” 講師 津金沢 聡広 マス・コミュニケーションの社会学(後期) [共]

” 講師 三沢 謙一 知識社会学の諸問題 [共]

” 演習 教授 池田 義祐 社会学の諸問題 [共]

” 助教 中 久郎 社会的行為論 [共]

” 講義 東南ア研 前田 成文 シンボル論講読(Clifford Geertz, Edward Shils, Alfred Schutz, Victor Turner) (前期)

” 講師 居安 正 Georg Simmel, „Die Gesellschaft“ Brücke und Tür, 1957

” 演習 教授 池田 義祐 現代社会学の諸問題 [院]

” 助教 中 久郎 社会構造論 [院]

” 助教 作田 啓一 行為解釈の問題 [院]

” 研究 助教 米山 俊直 社会学の基礎理論 [共]

” 助教 伊谷純一郎 人類学(考古学と共通) (後期) [共]

” 演習 東南ア研 水野 浩一 社会人類学の諸問題 [共]

” 講義 教授 武内 義範 ※宗教現象学 [共]

” 研究 教授 武内 義範 宗教と社会 [共]

” 教育 教授 上田 閑照 経験と宗教 [共]

” 助教 山本 誠作 ホワイトヘッドの宗教哲学研究(倫理学と共通) [共]

” 講師 梅原 猛 日本宗教史(仏教学と共通) [共]

” 講師 稲葉 稔 疎外の問題 [共]

” 宗教学

”	講師	石田 慶和	『教行信証』の哲学的考察【共】	”	助手	井符 弥介	Mokṣadharna (Mahābhārata, XII) (印度哲学史・梵語学梵文学と共通)
”	教授	武内 義範	Hegel: Phänomenologie des Geistes【共】	”	教授	梶山 雄一	藏文「ブツダ・チャリタ」【院】
”	講師	三嶋 唯義	J. Maritain: La philosophie morale (倫理学と共通)【共】	”	講師	一郷 正道	藏文「中観荘嚴論」(前期)【院】
”	講師	藺田 坦	Kant: Die Religion innerhalb der Grenzen der blossen Vernunft【共】	”	講師	瓜生津隆真	藏文「四百論」(後期)【院】
基督教学							
仏教学							
”	講義	梶山 雄一	※インド仏教思想史	”	講義	武藤 一雄	※基督教学序説
”	教授	梶山 雄一	Bodhicaryāvataraṇajika【共】	”	研究	武藤 一雄	キリスト教における歴史の問題―
”	教授	梶山 雄一	近世中国仏教史【共】	”	教授	水垣 涉	倫理の問題と関連して―【共】
”	講師	梅原 猛	日本宗教史(宗教学と共通)【共】	”	助教	水垣 涉	初代キリスト教思想の諸問題【共】
”	講師	前田 専学	Sāṅkhya 哲学研究(印度哲学史・梵語学梵文学と共通)【共】	”	講師	佐藤 吉昭	キリスト教教父の自然観【共】
”	講師	桂 紹隆	「成実論」研究(後期)【共】	”	講師	森田雄三郎	宗教共同体の論理【共】
”	教授	梶山 雄一	梵語仏典選集【共】	”	講師	関根 正雄	イスラエル思想史【共】
”	教授	大地原 豊	パリー・ブラークリット文選(梵語学梵文学と共通)【共】	”	講師	渡辺 信夫	カルヴァンの神学思想の形成と展開【共】
”	教授	小林 信彦	語学梵文学と共通)【共】	”	講師	稲垣 良典	中世の倫理思想(西洋哲学史と共通)【共】
”	助教	荒牧 典俊	Sūtanipāṭa【共】	”	教授	武藤 一雄	Kierkegaard: „Der Begriff Angst“【共】
”	助教	接部 建	Abhidharmakośaśāstra (前期)【共】	”	助教	水垣 涉	A. Adam: Lehrbuch der Dogmengeschichte 1【共】

- 講師 野本 真也 古典ヘブライ語文法および「創世記」原典の講読・釈義（西南アジア史学と共通） [共]
- 講師 遠藤 彰 「ローマ人への手紙」八～十六章の原典講読ならびに釈義 [共]
- 講師 小池 三郎 *Augustinus: De doctrina christiana*（西洋哲学史と共通） [共]
- 教授 武藤 一雄 院生の研究発表を中心に討論する [院]
- 助教授 水垣 渉

四 京都大学文学部哲学科卒業論文題目

—昭和五十一年三月—

哲 学

- 鼓 澄 治 ヘーゲル著『精神現象学』の論理
——対象意識に即して——
- 松崎 一 平 アウグスティヌスの時間論
——*Confessiones, Liber XI*——
- 吉田 修 先天的総合判断は如何にして可能か？
——カントに於ける学としての形而上学——
- 磯野 素 一 『パンセ』に於ける「感覚」の問題
——主としてラフエマ版第一章に拠って——
- 国府田 貫 一 ベルクソン哲学に関する小論
- 郷間 英 世 カール・レーヴィットの「共同世界」について

- 田 中 将 宏 外的存在について
- 伊 達 信 行 純粹理性批判における自然概念について
Mondo Candido（無垢な世界）
- 中 井 敬 二 デカルトの感覚理論について
- 中 嶋 英 司 デカルトの感覚理論について
- 山 崎 光 信 ニーチェにおける道德批判の問題
- 芳 野 省 二 カント哲学の図式論に関して
- 安 孫 子 信 デカルトにおける認識の問題
- 神 野 学 ホワイトヘッドの弁証法的論理について
- 山 田 康 博 ヘーゲル『精神現象学』における「承認」について

西洋哲学史

- 浅 田 均 時間論
- 渥 美 良 一 ヘーゲル哲学における「表現」の問題
- 山 田 陽 二 ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』における生命 (*Leben*) 概念について
- 小 西 賢 蔵 カントの『道德形而上学原論』の研究
- 中 島 章 子 ホッブズの『リヴァイアサン』に於ける人間について
- 新 見 宣 彦 ヒュームにおける外界存在の問題
印度哲学史
- 赤 松 明 彦 ウッディョータカラの推理論

——仏教論理家批判を中心に——

有川 一男 ジナ教に於ける出家修行について

——*Dasavaikalikasūtra, utarādhyaṇa-sāra*を中心として——

黒田 泰司 *Codanā* と *ニゴト*

——*Ślokaśāntika, Codanāsūtra* 章の研究——

中国哲学史

福島 正 先秦儒家思想に就いて

——主として論語に於ける「聖」の概念とその展開——

中村 良男 先秦・秦・漢初における道家の〈道〉につ

こト——『莊子』を中心として——

心理学

岩崎 隆彦 言語的媒介の発達の研究

大横田 貴子 対人認知に及ぼす情報の効果について

葛原 節子 映像によるフィードバックが態度認知に及ぼす影響について

——母と子の相互作用を題材として——

中沢 由美子 学級集団の構造

蜂屋 真 *Rearing* 回避条件づけ

星野 博和 強制的承諾状況における合成正当化モデルの

実験的研究

松村 暢隆 類概念の発達の研究

松本 清 短期記憶における音韻情報と意味情報について

山内 稔 二者間の取り引き状況での対人葛藤の解決

——二者による規範形成と第三者による規範形成の観点からの考察——

岡本 真一郎 行為者と観察者の知覚上の差異に関する考察

北田 隆 成功・失敗の原因の認知について

北村 和男 価値判断に関する一考察

高橋 成子 人工言語による言語学習に於ける意味の役割

前川 幸子 知覚的認知過程に及ぼす防衛の効果

和田 久美子 二色配合における配置の方向と色彩感情の關係

倫理学

高見 保則 *ディルタイ*の解釈学

黒田 康嗣 不毛と豊饒

——*マルティン・ブーバー*における二重性 (*Zweifaltigkeit*) の問題——

力武 晴紀 *F・シラー*の美的道徳論について

——美と道徳——

美学美術史学

梅原 賢一郎 芸術と身体

——メルロ・ポンティをめぐる——

加藤 哲弘 芸術についてのハイデガーの論究

久寺井 薫 萬鉄五郎論

中村 香織 新名所絵歌合

林 素子 Paul Cézanne

南 加寿代 俵屋宗達の彩色画について

金山 仁史 映像における実験とその理論的基礎づけにつ

いて

河野 弘美 カンディンスキーの抽象画

小宮 敏雄 E・パノフスキーに於ける様式の問題

森 栄 徹 M・ボンティ『眼と精神』について

社会学

大上 朝美 日本人の死生観

——心中文化——

岡部 淳子 宗教とそのリアリティ

田中 滋 社会学的葛藤の一指標

土屋 厚子 マス・コミュニケーション効果の限界

——説得を通して——

林 千章 現代の情報文化

細辻 恵子 都市における単身者の行動と生活

三上 剛史 ユートピア的意識の検討

森下 伸也 Max Weberの近代社会論

吉田 久夫 日本人の宗教意識について

若山 明美 労働と人間性

新井 肇 デュルケーム社会学における象徴論的志向と

視座

——刑罰宗教論の分析から——

伊藤 公雄 M. Weber 宗教社会学における「知識人層」

の位置

——「世界像」の生成と拡大をめぐる——

斎藤 由章 現代日本の都市問題と地域社会論の検討

四ノ原 恒憲 現代遊び論

——特に偶然的遊び、賭けについて——

伏見 薫 社会美学としての自由

森野 久和 アメリカにおける移動の伝統

網野 博 日本信念論序論

荒川 久志 American Ideology の一系譜

「聖俗」理論に寄せる一考察

乃美 幸彦 医療分野における社会学からの接近

——その視座をどう設定するか・地域医

療と関わって——

松田 和夫 コミュニケーション(基礎)論

吉岡 忍 パーソナリティ論(Frommによる)

宗教学

吉田喜久子 マイスター・エックハルト

中路正恒 ニーチェ

——永遠回帰と力への意志——

大西雅文 日蓮の宗教について

早川冬平 西田哲学について

——唯識思想と比較して——

仏教学

榎本文雄 Sagaha-Yagya について

田村秀行 煩惱について

中村哲元 認識とコトバ

——中論二、三、五章の研究——

兵藤一夫 中辺分別論第五章無上乘品

——特に随法行を中心として——

五島清隆 法華経に見る方便思想

基督教

伊藤聡 ニーチェに於けるニヒリズムの問題

——その根源と超克を力への意志から見定める試み——

五 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

修士課程修了論文題目

——昭和五十一年三月——

哲学

酒井 潔 スピノザの *exprimere* について

阿部 未来 現象学における身体の問題

岩熊 幸男 *Supposito* 論の初期の展開について

宗像 恵 スピノザに於ける知識の問題

倫理学

井野 伸哉 ソースタイン・ヴェブレンの知識社会学

戸谷 良二 C. I. Stevenson への批判を手がかりに

榊形 公也 キェルケゴールの「可能性」Mueighedの概念について

中国哲学史

木下 鉄 矢 段玉裁の研究

山口 久 和 玉船山研究・其の存在論を中心として

西洋哲学史

大森 正樹 マイスター・エックハルトにおける *esse* と

Intelligere の問題

中山 善樹 ブルトマンと前期ハイデッガーに於ける「時」の概念について

水落 健治 アウグスティヌスにおける徴し signa の問題
嶺 秀樹 『純粹理性批判』におけるア・プリオリな総合判断の本質と超越論的 주제

北岡 武司 カントの道徳の根本法則

——実践的・定説的形而上学への道程——

小池 澄夫 洞窟の比喩における「想起」の位置

米沢 茂 「ソクラテスの夢」とプラトンの技術的世界観

——プラトン対話篇に於ける『テアイテトス』202a-206b の占める位置——

山本 千洋 プラトンにおける「善のイデア」の位置

——Platon; Politeia VI, VII を中心として——

宗 教 学

岡村 康夫 一、「敬虔」とどうしたこと二、キリスト教の固

有名三、Mirum どういふこと

嶋田 義仁 宗教と構造

——構造主義の視点によるヘルクソン宗教論の評価と批判の試み——

山本 邦子 キルケゴールにおける Ernst について

吉田 いく子 宗教哲学の成立する場

——キルケゴールの思想的核心と意義——

和田 俊昭 カント『判断力批判』の研究

棚次 正和 ベルクソン哲学に於ける心身問題

仏 教 学

槻木 裕 Svapnapramāṇyaśāstra に対する仏教の批判

——Tattvasamgraha 二十五章より——

心 理 学

太田 明 選択行動に及ぼす情報の効果

木村 昌孝 強制的承諾の実験的研究

林 博信 失敗経験の原因帰属が遂行に及ぼす効果

福田 市朗 仮現運動における空間的特徴について

松沢 哲郎 いわゆる Spreading Depression を用いたラットにおける大脳半球間統合について

社 会 学

平 英美 マックス・ウェーバーの社会理論

——„Soziologische Grundbegriffe“ の内的連関性とウェーバー社会学への

Prolegomena——

高原 正興 社会病理学における規範概念の検討

横尾 直樹 現代アメリカの権力エリートと「ベトナム決定」

飯田 剛史 宗教社会学への一考察

美学美術史学

定金 計次 Bharata 欄楯の浮彫

——特に説話図に就いて——

下山 肇 自画像の諸問題

六 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和五十一年三月——

哲学

塚本 正明 デイルタイにおける「生」の「相対性」

——「連関」の基本構造——

山田 弘明 ガッサンディ研究序説

向井 俊彦 主体の分析への道

西洋哲学史

梅林 誠爾 ヘーゲル『論理学』に於ける概念そのものの

論理

——普遍と特殊の同一性について——

岡崎 文明 トマスにおける真理の基本的性格

岡村 信孝 判断と超越

今 義博 アウグスティヌスの音楽の定義についての予備

的考察

田中 庸雄 「超越論的哲学から宗教へ」試論

中川 純男 アウグスティヌスと「プラトン派の書」

——『告白』第七卷八章十二節—九章十五

節をめぐる——

藤本 雄三 トマス・アクィナス『真理論』における被造

的精神の本質による認識

——精神の自己認識と神認識——

宗教学

芳賀 直哉 宗教・文化・道徳

——パウル・ティリッヒの根本問題——

氷見 潔 ヘーゲルの啓示宗教論

基督教学

勝村 弘也 申命記史家の歴史観について

心理学

芋阪 直行 Some Problems in Peripheral Vision:

Information processing of brightness in

the peripheral and foveal visual systems.

——Effects of target size, luminance and

duration upon apparent brightness

哲学研究 第五百四十七号

and reaction time—

高取 憲一郎 ネオメンタリズムに関する一考察

浜田 寿美男 「曖昧」について

社会学

井上 真理子 社会科学認識論

奥村 義雄 現代の社会集団

鈴木 洋昭 社会問題研究におけるマートン理論の検討

美学美術史学

稲次 保夫 鳥獣戯画甲巻と丙巻

斎藤 仁作 芸術的創造について

七 京都哲学学会委員の異動

京都哲学学会現任委員のうち、昭和五十八年四月一日をもって、

竹原創一氏（助手退任、転出のため）が退任された。また、

日原利国氏（中国哲学史講座教授着任のため）、松丸寿雄氏（宗教学講座助手着任のため）が、同日付をもって委員に就任された。

前号（五四六号）の誤植訂正

三六頁一、二行

誤 内へ向け変えよ」(διεργασθησθε τον εσωτερικον)

ψυχην των νεφελων (Sagittari) との勧めは、対象と領域が

あることを示している。これにたいしてアブレイウス

は、好奇心が限定可能

正 内へ向け変えよ」(εστὸς ἐξωθεν καὶ διεργασθησθε

εσωτερικον νεφελων) との勧めは、対象と領域が

あることを示している。これにたいしてアブレイウスは、

好奇心が限定可能

一三一頁一行

脱落 基督教学

会員各位

諸般の事情で、最近やむなく特価で頒布致すことが多くな
っております。前金切れのつど清算致しますので、規定の会
費年額に適宜見込額を添えて御送金いただきますと御便利で
す。また御住所の変更は京都哲学学会へてお知らせ下さいま
すようお願い申し上げます。

昭和五十八年五月

編輯者